

# テッサ・モーリス・スズキ(Tessa Morris-Suzuki)教授 市大学術講演会のご案内

日 時：2013年11月8日(金)午後3時～5時

場 所：大阪市立大学杉本キャンパス法学部棟4階740教室

論 題：「越境する記憶：映画で再想像される帰国事業」

("Trans-Border Memories: Reimagining the Repatriation Project in Film")

## 講演要旨：

日本から北朝鮮へのコリア民族の大規模帰還(1959年～1984年)は、日本の戦後史においてどちらかといえば無視されてきたエピソードである。しかし近年になって、いくつかの創作映画やドキュメンタリー映画がこの歴史の諸側面を再創造している。錯綜する帰還の歴史について人びとの間で普及しているイメージは、映画によってどのように形づくられているのだろうか。この問題を提起することを通して、本報告では歴史的記憶の創造や忘却において同時代の映像メディアが果たす強力な役割に光をあてたい。

\*講演は日本語で行われます

## 【テッサ・モーリス・スズキ教授の経歴】――

1951年英国生まれ。英国ブリストル大学で学士号、修士号を、バース大学で博士号を取得。専門は日本経済史、思想史。現在、オーストラリア国立大学アジア太平洋学院教授でオーストラリア学士院人文系会員、元豪州アジア学会会長。2013年度福岡アジア文化賞(学術研究賞)受賞。現在の研究関心は、日本、中国、南北朝鮮の紛争と和解、20世紀中葉の東北アジアにおける人道主義、東北アジアにおける移民・難民問題、日本における草の根市民社会、朝鮮人神風特攻隊員の物語など。アジア市民権ネットワーク共同代表。日本語に翻訳されている著書も多数にのぼり、単著では『日本の経済思想』(岩波書店、1991年)、『辺境から眺める——アイヌが経験する近代』(みすず書房、2000年)『批判的想像力のために—グローバル化時代の日本』(集英社新書、2002年)、『北朝鮮へのエクソダス—「帰国事業」の影をたどる』(朝日新聞社、2007年)、『北朝鮮で考えたこと』(集英社新書、2012年)、共編著では吉見俊哉『グローバリゼーションの文化政治』(平凡社、2004年)、倉沢愛子他編『岩波講座アジア・太平洋戦争(全8巻)』(岩波書店、2005年-2010年)などがある。

対象者： 大阪市立大学学生・教職員

主 催： テッサ・モーリス・スズキ教授講演企画実行委員会

(脇村孝平・経済学研究科教授、永井史男・法学研究科教授、朴一・経済学研究科教授、王晨・法学研究科教授、

金子勝規・創造都市研究科准教授、阿久澤真理子・創造都市研究科教授、伊地知紀子・文学研究科准教授、

野村親義・文学研究科准教授)

\*テッサ・モーリス・スズキ教授の招聘にあたって、平成25年度大阪市立大学学長裁量経費による支援を受けました。

# アジア政経学会設立60周年記念講演 境界を越えるアジア研究

## Memorial Lecture for the 60th Anniversary of JAAS: Asian Studies beyond Borders

日 時：2013年11月9日(土) 午後1時15分から午後5時40分

場 所：大阪市立大学学術情報総合センター10階大会議室

司 会：桐山孝信(大阪市立大学副学長)、脇村孝平(大阪市立大学教授)

【午後1：共通論題第1セッション】 13:15-14:45

13:15-13:30 趣旨説明、紹介 永井 史男(大阪市立大学教授)

13:30-14:45 記念講演 テッサ・モーリス・スズキ

Tessa I. J. Morris-Suzuki(オーストラリア国立大学教授)

### 「日本と朝鮮戦争：越境的視点」

(Japan and the Korean War: A Cross-Border Perspective)

日英同時通訳付き

【午後2：共通論題第2セッション】 15:00-17:40

### 討 論：境界を越えるアジア研究

15:15-15:35 コメント 朴 一(大阪市立大学教授)

15:35-15:55 コメント 木宮 正史(東京大学教授)

15:55-16:10 休憩

16:10-17:40 全体討論

### テッサ・モーリス・スズキ教授・記念講演要旨

朝鮮戦争で日本が果たした役割についての人びとの間で普及している認識は、時間的・空間的な分断線によって強固に取り囲まれている。時間的観点では、朝鮮戦争はアジア太平洋戦争の出来事と鋭く隔離されていると見做されている。空間的観点では、日本は戦争の直接的暴力から地理的に隔離されていると見做されている。日本にとって、戦争のインパクトは間接的で主として経済的なものであったとしばしばいわれる。板門店での休戦から60年が経過し、このような時間的・空間的境界を問う時である。この報告では、アジア太平洋戦争を朝鮮戦争に関連づける継続性と、日本を朝鮮動乱の暴力に直接結びつけた国境を超えた人々の移動について探求する。

#### 【テッサ・モーリス・スズキ教授の経歴】

1951年英国生まれ。英国ブリストル大学で学士号、修士号を、バース大学で博士号を取得。専門は日本経済史、思想史。現在、オーストラリア国立大学アジア太平洋学院教授でオーストラリア学士院人文系会員、元豪州アジア学会会長。2013年度福岡アジア文化賞(学術研究賞)受賞。現在の研究関心は、日本、中国、南北朝鮮の紛争と和解、20世紀中葉の東北アジアにおける人道主義、東北アジアにおける移民・難民問題、日本における草の根市民社会、朝鮮人神風特攻隊員の物語など。アジア市民権ネットワーク共同代表。日本語に翻訳されている著書も多数にのぼり、単著では『日本の経済思想』(岩波書店、1991年)、『辺境から眺める——アイヌが経験する近代』(みすず書房、2000年)『批判的想像力のために—グローバル化時代の日本』(平凡社、2013年)、『北朝鮮へのエクソダス—「帰国事業」の影をたどる』(朝日新聞社、2007年)、『北朝鮮で考えたこと』(集英社新書、2012年)、共編著では吉見俊哉『グローバリゼーションの文化政治』(平凡社、2004年)、倉沢愛子他編『岩波講座アジア・太平洋戦争(全8巻)』(岩波書店、2005年-2010年)などがある。